

第45回北区区政会議 会議録

1 開催日時

令和6年6月28日（金） 午後3時00分から午後4時32分まで

2 開催場所

北区役所 4階 402・403会議室

3 出席者

吉川 郁夫（議長）、吉沢 克規（副議長）、井筒 由裕（委員）、
奥 一朗（委員）、笠井 あゆみ（委員）、勝 千晶（委員）、
木下 真弓（委員）、栗原 豊美（委員）、島村 恭平（委員）、
高垣 ユキ子（委員）、渡島 清美（委員）、西野 仁（委員）、
二口 勇（委員）
高山 美佳（市会議員）、近藤 大（市会議員）、前田 和彦（市会議員）、
山本 智子（市会議員）
寺本 譲（区長）、木戸 信成（副区長）、森 正俊（総務課長）、
池西 かおり（政策推進課長）、小林 靖子（地域課長）
中野 義宣（福祉課長）、兼坂 晃始（健康課長）
奥中 理恵（政策推進課担当係長）

4 委員に意見を求めた事項

令和5年度北区運営方針自己評価について

5 議事内容

○奥中政策推進課担当係長

お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから第45回北区区政会議を開会いたします。

本日は、お忙しい中御出席賜り誠にありがとうございます。

北区役所政策推進課の奥中でございます。よろしくお願いいたします。

前回の区政会議で申し上げたとおり、今回より区政会議を録画し、適宜編集させていただき公開することとしておりますので、御協力、御理解よろしくお願いいたします。

本日の議事についてですが、木下委員の到着が少し遅れていますが、委員定数13名のうち12名が出席されており、議長を含む委員定数2分の1以上の委員が出席しておりますので、有効に成立いたします。

また、久谷府議会議員につきましては、本日公務のため御欠席でございます。

続きまして、4月1日付人事異動により新たに着任いたしました職員を御紹介いたします。

区長の寺本でございます。

健康課長の兼坂でございます。

本日、自席待機とさせていただいております戸籍登録課長の森本でございます。

本日の区政会議ですが、議題は令和5年度北区運営方針についてとなります。お手元の資料の御確認をお願いいたします。まず、1枚目に次第がございます。次に、座席表、委員名簿でございます。続きまして、資料1でございます。続きまして、資料2、3となります。そして最後に参考資料となります。不足等はございませんでしょうか。

それでは、開会に当たりまして、区長の寺本から御挨拶申し上げます。

○寺本区長

改めまして、皆様、こんにちは。北区長の寺本でございます。

本日はお忙しい中、また直前まで大雨が降っておりまして大変お足元の悪い中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

日頃より北区政に関しまして多方面から御意見をいただいているということでございまして、改めて皆様方に感謝を申し上げたいと思います。

区政会議、私、初めて今回出席をさせていただきますけれども、もう第45回というふうにお聞きしております。委員の皆様方から区の施策に対して様々な角度からいろんな御意見を頂戴していると伺っておるところでございますので、本日も多方面から御意見をいただけたらと思います。

既に皆様御承知のように、私もこの4月から北区長を拝命いたしまして、3か月もたとうかなという時期になっております。いろいろ区内も回らせていただき、いろんな方とお話もさせていただきながら、いいことばかりではなくて、いろんな課題もやはりあるのかなというふうに思っているのが正直なところでございます。また、北区はやはり西日本最大の大阪梅田ターミナルがございますし、また、その周辺ではいろんな大規模開発が進められております。こうしたいわゆる大阪の中心となるエリアはもとより、一方で伝統的なエリア、古くからのまち並みの残るエリアも多数あるということで、大阪のまちをぎゅっと縮小すると北区になるのかなというふうに感じておる次第でございます。また、近年やはりマンションが多く建ってございますし、人口も、市内は減っているところも多いと聞くんですけれども、北区はまだ人口も増えてきているということで、これから教育、子育ての施設の需要が増えてくるのではないかと、一方で高齢化率も上がってきているということで、福祉施策の再構築も考えていかなければならないかなど、区を取り巻く課題も多岐にわたっているんだろうと感じておる次第でございます。

来年、2025年は大阪・関西万博がいよいよ開幕でございまして、大阪がまた世界

から注目されるエリアになるのかなということでございます。大阪の玄関口、いわゆるゲートウェイである北区に多くの方がたくさん訪れていただくことになろうかと思えますし、こうした機会をとらまえて、区役所としましては北区が今まで以上に安全安心なまちというのをベースにしながら、元気で魅力的なまちになるように、微力ながら私ども頑張っていきたいなと思っておる次第でございます。

本日の区政会議におきましては、令和5年度の運営方針の自己評価ということをごの後御説明もさせていただきます。皆様方からの活発な御意見、御指摘を賜ればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、開会に当たりまして一言御挨拶させていただきました。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○奥中政策推進課担当係長

それでは、議事に入りたいと思います。

吉川議長、よろしくお願いいたします。

○吉川議長

皆さん、こんにちは。議長の吉川でございます。

本日も皆様方の御協力をいただきまして、円滑な議事進行に努めてまいりたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、着座をお許しいただき、進めてまいりたいと思います。

さて、本日の区政会議でございますが、令和5年度北区運営方針の自己評価につきまして区役所の方から御説明をいただき、その後、委員の皆様から御意見を頂戴したいと思います。

それでは、政策推進課長、よろしくお願いいたします。

○池西政策推進課長

政策推進課長、池西でございます。よろしくお願いします。

令和5年度北区運営方針自己評価につきまして御説明させていただく前に、北区将来ビジョンと北区運営方針の位置づけについて、まず御説明させていただきたいと思っています。

お手元の資料でいいますと、最後におつけしております1枚物になります。

まず、大阪市全体の市政運営の基本方針としまして、図には書いてはいないんですけれども、新・市政改革プランというものがございます。その新・市政改革プランに基づき、各区において将来ビジョンを策定しております。北区将来ビジョンについては、長期的な区のめざす将来像、将来像の実現に向けた施策展開の方向性などを取りまとめ、区民の方々に明らかにするものと位置づけております。この北区将来ビジョンで示された施策展開の方向性に沿って、施策、事業の取組を明らかにする単年度ごとのアクションプランとなるものが運営方針となります。

なお、来年度、北区将来ビジョンの改定を予定しておりまして、本日いただいた御意見も参考にさせていただきながら素案を作成し、次回の区政会議にて御意見をいただきたいと思いますと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、資料1を御覧ください。

先ほど御説明させていただきました運営方針の令和5年度自己評価について御説明させていただきます。

まず、北区では、令和3年度に策定された北区将来ビジョンに基づきまして取組を進めているところでございます。本日は、昨年度、令和5年度の取組内容を中心に御説明いたします。

それでは、3ページを御覧ください。

令和5年度の区運営の基本的な考え方ですが、北区将来ビジョン・3か年計画に掲げる防災、防犯、教育、健康、保健福祉、広報の各分野を区の経営課題に位置づけ、

めざすべき将来像の実現に向け取り組むこととしております。

経営課題ごとに御説明させていただきます。4ページを御覧ください。

上段は、経営課題ごとのアウトカム指標、目標値となります。そして、課題認識、主な戦略（課題解決の方策）を記載しております。下段には、具体的な取組を記載しております。

まず、経営課題1の地域コミュニティについてです。アウトカム指標として、地域活動協議会の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合、94%に対し、実績は94.4%でした。具体的な取組としましては、各マンションのコミュニティ形成を目的とした防災講座や、防災の基本ルールづくり等の支援を各マンションの実情に即して積極的に実施いたしました。

経営課題2の地域防災についてです。アウトカム指標として、防災訓練や講座の参加者数、1万人に対しまして、実績は1万105人でした。具体的な取組としましては、先ほど地域コミュニティの取組でもありましたが、防災の取組においては地域コミュニティが必要不可欠となっており、マンションのコミュニティ形成を目的とした防災講座や、防災の基本ルールづくり等の支援を積極的に実施いたしました。

経営課題3の地域安全についてです。アウトカム指標として、青色防犯パトロールの稼働率、95%に対し、実績は98.7%でした。具体的な取組としましては、青色防犯パトロール（車両・自転車）による巡回を開庁日につき午前1回、午後1回の1日2回、継続的に実施しました。

10ページになります。経営課題4の自転車利用の適正化についてです。アウトカム指標として、自転車放置率、8%に対し、実績は8%でした。具体的な取組としましては、公開空地を活用するなど駐輪場の整備を進め、台数を増やしました。

12ページです。経営課題5の子どもの安全についてです。アウトカム指標として、こども110番ステッカーなどの掲出協力件数、2万7,000件に対し、実績は2万8,566

件でした。具体的な取組としましては、保育施設、幼稚園、中学校の保護者へ、こども110番ステッカーなどの掲出協力の依頼を行いました。

14ページです。経営課題6の小学生の学力向上についてです。アウトカム指標として、区内全小学校11校の全国学力テストの平均正答率が全国平均を上回る学校、11校に対しまして、実績は8校でした。こちらについては目標未達成となっておりますが、北区全校平均では全国平均を上回る結果となっております。具体的な取組としましては、小学校へ学校活動有償ボランティアを派遣し、教科指導以外の業務の補助を行うことにより、教員の事務作業の軽減や授業のための準備時間の充実など、教員が教科指導に注力できるよう側面的な支援を行いました。島村委員より事前質問をいただいておりますが、令和5年度は、授業の補助をはじめ別室登校の児童の見守りや外国籍の児童の通訳など、小学校11校にボランティアを派遣いたしました。

経営課題7の小・中学生のキャリア教育についてです。アウトカム指標として、区が実施する体験事業により夢や目標が持てた中学校1年生の割合、74%に対し、実績は93%でした。具体的な取組としましては、昨年度から実施しております夢キタ万博をはじめ、小・中学校に対する芸術鑑賞会や中学校部活動に対する支援を実施いたしました。

18ページになります。経営課題8の地域福祉についてです。アウトカム指標として、コミュニティソーシャルワーカーが相談を受けたケースについて、専門機関につないだり、解決または支援方針を示すことができた1地域当たりの件数、100件に対し、実績は99件でした。こちらについては目標未達成となっておりますが、令和4年度実績86件からは増加し、一定効果は出てきていると考えております。具体的な取組としましては、地域の見守り活動や関係機関への取次ぎ等の役割を担う地域福祉コーディネーターの配置や、解決困難な事例の支援機能強化の役割を担うコミュニティソーシャルワーカーの配置を行いました。

20ページです。経営課題9の重大な児童虐待ゼロについてです。アウトカム指標

として、子どもとの関わり方についての講習会（ペアレントトレーニング）実施後のアンケートにおいて、講座内容に満足したと感じる割合、75%に対し、実績は100%でした。また、子育て支援施設との関係を構築できた施設数、全95施設については、アウトカム指標95施設に対し、実績は95施設でした。具体的な取組としましては、子どもとの関わり方についての講習会の開催や、未就学児を取り巻く課題に対する課題解決に向けた環境支援の役割を担うプレスクールワーカーの配置を実施しました。

22ページです。経営課題10の子育て支援についてです。アウトカム指標として、親子の絆づくりプログラムの受講者数、140人に対し、実績は142人でした。具体的な取組としましては、第1子の乳児を育てる親と子を対象にした親子の絆づくりプログラムを開催いたしました。

続きまして、経営課題11の健康長寿についてです。アウトカム指標として、介護予防のための集いの場の開催箇所数、24か所に対し、実績は26か所でした。具体的な取組としましては、いきいき百歳体操の新規開催を地域や自治会等に働きかけたほか、はつらつ脳活性化教室のサポーター養成講座やサポーターレベルアップ講座を開催しました。

26ページです。経営課題12の区政情報・地域情報の発信についてです。アウトカム指標として、地域コミュニティアプリ「ピアッザ」の登録者数、3,500人に対し、実績は4,184人でした。具体的な取組としましては、ピアッザのチラシ等を区役所に配架したほか、区内公共施設、保育園、幼稚園等に配布や広報誌で登録の呼びかけを行いました。

以上で説明は終わらせていただきます。

○吉川議長

ありがとうございました。

それでは、委員の皆さんの御意見を聞いてまいりたいと思います。委員の皆様には、

本日、受付で、意見を述べたい項目を区役所に確認していただいておりますので、できる限り御希望のテーマで意見をお聞きできるように進めてまいりたいと存じます。また、できるだけ多くの方から御意見をお聞きしたいと思っておりますので、円滑な議事進行に御協力をお願いいたします。

それでは、まずテーマ1の防災・防犯につきまして御意見を頂戴したいと思います。最初になりますが、二口委員、お願いいたします。

○二口委員

経営課題2の地域防災についてお尋ねいたします。

マンションにおいての防災訓練を行政として支援していただいていると思うんですが、地域防災リーダーとの連携はどの程度のパーセンテージで実施されたかお教えいただけたらありがたいです。

○吉川議長

それでは、地域課の方、小林課長、お願いいたします。

○小林地域課長

地域課長の小林でございます。よろしくお願いいたします。

今、二口委員の方から御質問ございましたマンション防災、マンションと連携した防災訓練ということで、具体的なパーセンテージということなんですが、申し訳ありません、ちょっとそこまでは出せておりません。マンション独自で訓練している分につきましては、そこが地域と一緒にやっているかどうかというところにもなってくるんですけれども、実際のところはなかなか地域と一緒に連携してやられている、マンション単体でお申込みがあって訓練できているというところでは、ちょっとできていないのかなというのが実情かなと思っております。ただ、今後、やはりマンションの

方、地域とのつながりがちょっと薄いところもあるんですけども、これもずっと言っていることで申し訳ないんですけども、防災というのが一つの切り口になるかと思いますので、できる限り、区役所としてマンションの方にそういった防災とかの支援に入らせていただくときには、地域とのつながり、コミュニティの大事さというところをお伝えしながら、行く行くは地域と一緒に訓練ができていくようにというつもりで支援をさせていただいておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いしたいと思います。

○二口委員

ありがとうございました。できるだけ地域防災と連携して進んでいけるような形を御指導いただけたらありがたいなというふうに考えています。

以上でございます。

○吉川議長

ありがとうございます。

続きまして、笠井委員、お願いいたします。

○笠井委員

笠井です。よろしくお願いします。

資料2の方に、前回の質問と区役所の回答ということでまとめてくださっていただいて、一つは③番の、こちらの方の質問の意図としましては、私自身が地域活動を始めるにおいて、区役所、行政のバックアップがあったので、その当時は若い力と言われてコミュニティを形成していったという流れに対して、今後もそういったサポートをほしいという内容でして、もう一つの⑩の方に、ジシン本を使ったコミュニティへのアプローチということをしていまして、どちらもテーマ型コミュニティや地域コミ

ユニティといういろいろなコミュニティの架け橋に、今、小林課長おっしゃったように、きっと防災だったら架け橋になるというふうにここ数年で感じております。そういった制度と制度のはざまを私は日々埋めて、子育て支援で活動しているつもりではいるんですけれども、そういったNPOとか非営利の団体の方たちが、少しコロナの前とかは顔の見える関係づくりということで、異業種交流みたいなことで非営利団体同士が交わる機会もありましたので、コロナも落ち着いた今、再度そういった行政主導のみんな出てきて、どんな活動しているのという場があればなというふうに感じているところです。

○吉川議長

ありがとうございます。これに対しても地域課の小林課長、お願いいたします。

○小林地域課長

すみません、続きまして地域課、小林です。

笠井委員、いつも貴重な御意見ありがとうございます。本当におっしゃるとおり、昨年ぐらいからどんどんコロナも明けてきて、顔の見えるというか、直接関わってのいろんな訓練であるとかイベントとかというのも出てきているかなと思います。いつもおっしゃっている、そういった活動されているNPOの方ですとかそういったところの各種活動いただいている団体、なかなか区役所の方でもつながりのあるというか、すぐ御連絡できるようなところというのは限られてきているかなと思っております。今後、そういった活動を通じて、防災が切り口であるとか、本当にいろんなテーマ型のコミュニティ活動を通じてというところでの活動にはつなげていきたいなと思っておりますので、もし委員の皆様方の中でも可能でありましたら、こういったところもあるし、一緒に一回やってみたらどうというようなことでちょっと御紹介いただけるとありがたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。引き続き、

そういった視点で区役所としても進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

○吉川議長

ありがとうございます。

笠井委員、これでいいでしょうか。ちょっとまた後でいきますので。

それでは、ちょっと時間もかなり順調に進んでおりまして、どんどん進んでおりますけれども、次にテーマの2に移りたいと思います。教育、健康、保健、福祉につきまして御意見を頂戴したいと思います。

それでは、まず島村委員、よろしくお願いいたします。

○島村委員

豊崎東の島村です。どうぞよろしくお願いいたします。

私の方からは経営課題6の小学生の学力向上について意見を申し上げます。

先ほど池西課長からもご説明いただいたとおり、質問票の回答を拝見しまして、小学校への学校活動有償ボランティア派遣事業について、事業目的であるとか取組内容について理解いたしました。現在、私も民間の教育事業に携わらせていただいております、公教育に対するニーズの複雑化であるとか、それに伴う先生方の多忙につけて、新聞等でも拝見する機会が増えたなというふうに感じています。経営課題の7で取り組まれている中学校の部活動に対する支援事業なんかもそうですけれども、地域全体でやっぱり学校を支えていく必要があるなと思いますし、今後私自身も何かのお役に立っていけたらなというふうに考えています。

いずれにいたしましても、事前質問票のご回答のとおり、各学校園のニーズに応じた支援をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○吉川議長

ありがとうございます。

ただいまの御意見に関しまして、池西課長、よろしくお願いします。

○池西政策推進課長

島村委員、御質問ありがとうございました。

おっしゃったように、学校現場の方は非常に多忙で、多くの課題を抱えながらされております。大阪市の方は教育振興基本計画というのを掲げて、大きな最重要目標というのを持ちながらやられています。その中で、未来を切り拓く学力・体力の向上というのも大目標として掲げて取り組んでおられます。それぞれ学校の特色もありますし、それぞれの課題もお持ちになりながら、その中でもやはりどうやったら学力と、最近言われています子どもたちの体力の低下が見られますので、そこも向上しながら、そして学びの中を通した人格形成ということを先生方は取り組まれておられます。一方で、その中でやはり外国籍の方々が増えていたりとか、発達障害のお子さんが増えていたりとか、不登校の問題ですとか、あとは働き方改革で、いろいろやらなければならないことが多い中で、一方で働き方改革も求められているというふうな実態の中で、その中でもやはり子どもたちの学力向上に向けて先生方が何とか授業に専念できるようにというふうなことでされているので、区役所としましても、学校、地域と家庭と、地域ぐるみで子どもたちを育てていくという中で、区役所も地域の一員であるという立ち位置で何ができるのかということを考えて事業の方を実施しております。先生方が何とか授業に専念できるようにという側面的な支援ということができないかということで、書いてあるように子どもたちの別室の登校とか、ちょっと日本語のお手伝いが要る子どもの支援ですとか、そういうことで人材を派遣しているということを見せてもらっておりますので、ぜひとも地域の視点から、このようなことをされて

はどうでしょうかということで御意見をいただきたいなと思いますし、子どもたちの登校の見守り活動ですとかそういったこともすごく地域の方々としては必要とされているところかなと思いますし、ぜひ今後ともそのような御意見いただけるとありがたいと思っております。ありがとうございました。

○吉川議長

ありがとうございました。

○島村委員

ありがとうございます。非常にご丁寧にご説明いただきまして、ありがとうございました。ご参考にさせていただいて、私も先ほどお話のあった将来ビジョンとか地域福祉計画の中で何か盛り込んでいただけるようなことがあれば、ぜひご提案させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○池西政策推進課長

よろしくお願いいたします。

○吉川議長

ありがとうございました。

それでは、次に高垣委員、よろしくお願いいたします。

○高垣委員

北天満の高垣でございます。よろしくお願いいたします。

私は子育てサロンのことでちょっとお話ししたいんですけども、コロナ禍で来られなかったのがまた開催して始めているんですけども、やっぱり最近は子どもさんが、1年たったら仕事に復帰する方が多くて、ずっと来てくれるということはなかなか

か少なくなりまして、来てくれるときもあるんですけども、少ないときもあるし、なかなか一定しないんですよね。それで、乳児が多いんです。それで、お母さんが抱っこして来て、子どもさんが泣くとどうしてもお母さんから離れなくて、それで子育てサロンに来てくださって、お母さん方が本当にほっとできるのかなというのちょっと最近思ったりしているんですよね。開けているだけで、来てくれる場所があるだけでいいのかなとも思ったり、お母さん方がほっとできる場所が本当に提示できたらいいなとも思ったり、それでちょっと悩んでるところもあります。

それで、15年ぐらいもうたっていると思うんですよね、子育てサロンも。それで、一遍お母様方にどういうサロンをしてほしいかとか、どういうのを望んでいるとか、会議ではやっていると思うんですけども、そういうアンケートを少しちょっと取っていただいたらどうかなと最近思っているんですけども。

以上です。

○吉川議長

ありがとうございます。

ただいまの意見に対しまして、中野福祉課長、よろしくお願いいたします。

○中野福祉課長

福祉課長、中野です。よろしくお願いいたします。

高垣委員、いつも御意見ありがとうございます。

また、民生委員、児童委員の皆さん、とりわけ子育てサロンに関わりましては主任児童委員の皆様に居場所づくりも含めて非常に御協力をいただいていることを、この場をお借りして改めてお礼を申し上げたいと思います。

委員おっしゃった子育てサロンの運用の在り方、主任児童委員とは二月に一度なんですけれども、定期的に区役所の我々と意見交換の場を持たせていただいて、その際

にも各子育てサロンでの活動状況の報告と共有であるとか、いわゆるそれぞれの地域での課題というようなことも共有はさせていただいています。子育てサロン、おっしゃるようにコロナの時には本当に軒並み休止というようなところが、ようやくいいですか、この1年間、目に見えるように活動というのが再開もされて、心なしか主任児童委員の皆様の顔を拝見していても、報告をお聞きしていても非常に楽しそうといますか、私もそれを見てすごくほっとしているというのが正直な感想です。中には地域を超えて合同で、堀川・滝川地域であれば合同でホテルの宴会場をお借り上げになって、地域の方とかいろんな団体の方も参加されてのサロンとかもされております。片方では地域の中で、本当に身近なところで継続的な取組をされて、非常に工夫を凝らしてやっていただいているというところは、本当に頭の下がる思いかなと思っています。

ちょっと私その中で、主任児童委員の意見交換の場でもちょっと気になったのは、初めてお顔を見るような方、地域で別の会合でそういう話題になった時に、子育ての相談みたいなことを受けた時に、それやったら地域の子育てサロンに来たらいいのにお声がけを主任児童委員がされた時に、そんなものがあるのを知らなかったとおっしゃっていて、その主任児童委員もちょっと少なからずショックを受けられたということもあります。そのことについては私たち区役所もすぐに改めて課内では共有して、私たちもいろんな媒体を通じて子育てサロンの活動、あるいは主任児童委員の活動についてはPRもさせていただいていますし、反対に区役所の方から子育ての相談という形でお邪魔させていただいたりしているんですけども、改めてやはりそういう広い方に地域での子育て活動を知っていただくということは非常に重要かなと思っています。

先日、区の中での課長会を開催した時に区長からも、自分は就任してから地域の行事とかにたくさん行っているのに、もっともっとPRせなあかんがなと。それは別に区役所のPRとか自分のPRちゃうでと。区長のPRちゃうでと。地域の中でこれだ

け頑張っている人たちのことを知ってもらうために、もっと自分らが努力せんかいとうこととも言われましたので、まさにそのことは高垣委員の御意見の中にもあろうかと思います。おっしゃったように、子育てサロンの中で一度アンケートをとというアイデアについては、早速ですけれども直近の児童委員の集まり等でも共有していただいて、協力させていただいて、どの範囲でどれぐらいの規模でできるかというのは分かりませんが、手法も含めて少し持ち帰って、実現に向けて考えさせていただきたいと思いますので、御理解よろしくをお願いいたします。

以上でございます。

○吉川議長

ありがとうございます。

高垣委員、よろしいでしょうか。ありがとうございました。

続きまして、栗原委員、よろしくお願いいたします。

○栗原委員

滝川地域の栗原です。よろしくお願いいたします。

子育て支援というので、私自身が子育て真っ最中だった頃からしたらもう六十何年前の話で、その頃から思いますと、今の子育て支援って本当に国も市とかも皆さんすごいですよね。支援していただいているのが。その当時から比べたら夢のような子育ての世界だなと実際思っています。でも今、子ども食堂に行っている子どもさんがいるとか、そういうのはよく聞いて、この前の新聞でも夏休みは要らないと。給食がないから、親御さんも栄養のある御飯を食べさせられないからという記事を見て、えっと思ったんですね。それと、今は出産費用もかなり本当に負担がないぐらい手厚くするということで、令和8年ぐらいになると本当に無償という感じで、そういうふうと考えてくださっていると。少子化の問題もあるからだと思うんですけれども。でも、

それを聞いた妊婦の方の意見が、出産は無料でできても、子育てにすごくお金が要るから、2人、3人って考えられないという意見を読んだことがあって、子育てってそんなものかなとすごくショックを受けました。本当に一から自分の子どもを育てるのに何もかもがそうしてもらって、要求するのっていかなものかなと。ちょっと極端な例だとは思いますが、あまりにも当たり前になってきたのかなという気がします。

それと、少子化問題もやっぱり子どもを産むのは女の方ですよね。幾ら世の中が条件をよくしていただいても。今女性ってすごく、私らの時から比べたら本当に地位が認められて、男の人顔負けぐらいの活躍できる方がいっぱいいらっしゃると思うんですね。だから、そういうのにあまり、子ども、子どもって、そういうのもちょっと時代に合わないのかなとも思い、何かすごくこの少子化問題とか子どもの支援のこういうのを見て、ちょっとこの頃考えさせられております。また、そういうことを言ったら、子育てを一生懸命している人からいったら批判をいただくかもしれませんけれども、ちょっとイコールにならない、本当にただ子どもが増えると言って喜んでられないような時代になっているのかなとも思っております。

○吉川議長

ありがとうございます。

これはちょっと健康課の問題でしょうか。福祉課になりますか。

○中野福祉課長

子育てということですね。

国においては児童手当の拡充とか、かなり手厚い施策がいわゆる子育て対策ということで、少なくとも財政支援的なところとかというのは非常に大きな予算ついてということがございます。片方で、栗原委員おっしゃっているように、本来子育てっても

っとという部分も確かに心の内とかということがあって、それは両方が両立してというのは、私は国の施策を云々言う立場じゃないんですけれども、地域でおればそういう感想を持っているところがあります。

いずれにしても、今、高垣委員とかもおっしゃっていたように、子育てサロンとかも含めて、あるいは、今日、社会福祉協議会の事務局長が傍聴に来られていますけれども、フードドライブとか子ども食堂の取組というのはまさに地域の方が中心になってやっていただいておりますとか、区役所としてもファミリーマートと連携しながらフードドライブということで、地域の方から食料品を寄附いただいて、北天満の家っしーとかでそれを活用いただいているとか、一つはそれぞれの国の制度の中での予算とかを含めた制度の拡充と、地域の中で子どもを生み育むというような体制、両方が必要なかなというふうに思っています、我々が担うのはまさに、私、福祉事務所を預かっていますので、制度を適正に運用しながら、本当にサービスが必要な方に適正なサービスが行くようにということは、日常のこともありましようけれども、もう一つ地域福祉計画とか子育てを預かる立場としましては、そういった地域も含めた子育て、もっといろんな意味で言えば地域福祉の拡充というところにも力を注いでいきたいと思っています。今の御意見もいただきながら、次期地域福祉計画にそれを反映できるように今後議論を進めていきたいと思っています。御意見どうもありがとうございます。

○吉川議長

ありがとうございました。

よろしいでしょうか。

○栗原委員

ありがとうございました。

決して批判しているわけではございません。ちょっと何か割り切れないものがある

たものですから。すみません。

○吉川議長

ありがとうございました。

それでは、お待たせしました、渡島委員、お願いいたします。

○渡島委員

豊仁の渡島でございます。よろしくお願いいたします。

私、保育にも携わっているのでお聞きしたいんですけれども、去年の区政会議でもお願いしたんです。お願いとかお話しさせていただいたんですけれども、運動会がどうしても、今までは小学校は9月の終わりの日曜日か、次の月初めの日曜日だったんです。ところが、今熱中症ということもあり、いろいろと小学校も考えられて、いろんな日にちを選ばれております。ところが、去年もそうだったんです。私のところ、最初から年間行事を立ててしているんですけれども、ある小学校が日にちを変えられて、かち合うようなことになったんです。それがまた今年もなりました。何とかかち合わないような形にしてもらえないかな、小学校は日曜日にしてもらえないやろうかと思ったりしているんです。保育所は大体行事は土曜日に行うようにしているはずなんです。だから、そこのところをちょっと考えていただけたらうれしいなと思います。やはり兄弟の方がおられるので、やはり同じ日になると、兄弟、お父さんだけが小学校へ行ったり保育園へ行ったりとかというような形になると思うので、できましたらもう少し考えていただけたらと思います。すみません、よろしくお願いいたします。

○吉川議長

ありがとうございます。政策推進課長、よろしくお願いいたします。

○池西政策推進課長

政策推進課、池西です。

日にちがずれる方がよいですし、皆さん暑さ対策というのをやはりすごく最重点に考えられて、あと子どもたちの負担ですとか、春の方がいいのか秋の方がいいのかというのは学校現場で毎年そこを考えられています。その中で、今年はこうしようというふうに決められているというのは見聞きしているんですが、ちょっとそのようなことは学校の先生の方に意見としてお伝えすることは可能なんですが。

○渡島委員

小学校の年間行事もやっぱり立てられると思うんですね。違う日だったんです。ところが、変えられて同じ日になったんです。だから、やはり年間行事というのは大事なもので、変えらるとなると、せっかく決めたことが違ってくるので、保護者の方もやっぱり言われる場合もあるので、できたら小学校は日曜日、保育所は土曜日というような形にしていだけたらありがたいなと思っております。

○池西政策推進課長

そのあたり、お伝えさせていただきます。よろしくお願いします。

○吉川議長

ありがとうございました。

渡島委員、いいでしょうか。

続きまして、木下委員、よろしくお願いいたします。

○木下委員

すみません、遅れて申し訳ありません。必死で来たんですけれども、すみません。

私の方からです。経営課題８の地域福祉と経営課題11の健康長寿というところ、項目は別々で、多分中身としては一つ、同じような面だと思って一緒にさせていただいてよろしいでしょうか。

まずは、ここは地域福祉の充実というのと、あと子どものこととかがいっぱいあって、子どもの居場所とかそんなのはいっぱいあるけれども、これからは年寄りの居場所というのが必要かなと。セットで要るん違うかなと思うんです。それと、脳活性化教室というのは健康長寿のところであると思うんですけれども、これもやっぱり居場所の一つの一步前進のところやと思うんです。これと両方を兼ねて、2050って2050年には多分皆さんそこそこの十分な年になると思う。その時代に寿命は多分もっと延びていると思うんです。だから、そういう地域の居場所づくりというのをこれからはつくっていかなとあかなという言い方はあかな、つくりたいと思う人を増やさなあかなと思うんです。そういう目的でやっぱりこの福祉政策というのを今後お立てになるつもりはあるのかどうかということを知りたいと私は思いました。居場所というのはすごく大事なところで、独り暮らしの人というのはやっぱりこれから増えると思うんです。だから、子どもはもう育っていくし、数は少なくなっていく。でも、命がある限りはやっぱり地域で過ごしていただく方法を一緒に考えるような政策をこれから進めて行ってほしい。行ってほしいと言うたらあかな、人ごとになるから。いきたくないと思うような人がいっぱいできるような政策をつくっていただけたらうれしいかなと思っております。

○吉川議長

ありがとうございました。

そしたら、区長にご回答をお願いしたいと思います。

○寺本区長

貴重なご意見ありがとうございます。

私も、これから来年度以降のプランをどうつくるか、ビジョンをつくるかと思っています。私も居場所づくりは必要だと思っていますし、居場所に行きたい、あるいは居場所を運営したいと思う人も必要だろうというのは率直な感想でございます。ただ、どうやってつくるかは、すみません、またこれから議論して考えさせていただきたいと思います。ぜひともそういう、ちょっとでも出て行きたくなるような場所、ほっとする場所みたいなのは、私は必要かなと思います。ぜひともちょっと中でいろいろ議論して考えたいと思います。

以上です。

○吉川議長

ありがとうございます。

木下委員、それでよろしいでしょうか。

○木下委員

はい。

○吉川議長

そしたら、次に行きますので、ありがとうございます。

それでは、井筒委員、よろしくお願いいたします。

○井筒委員

皆さんいろいろ地域で活動なさってすごいなと思っているんですが、私ももうぼつぼつそういうところへ行かなあかんという年になってきたんですが、そういう施設をつくろう、何とかをつくろうというのは、やっぱりはっきり言ってお金が必要わけですね。今、日本の国の政策としてはプライマリーバランスの黒字化を目指しているので、お金の信用創造をしないというのに決めているので、こっちをつくったらどこかを減らさなあかん。全体的に経済を大きくしてお金を増やそうということとはしないと決めているので、それを毎年同じ金額で何か新しいことをしたらどこかをやめてしまうというので、区役所の方も皆さんも一生懸命悩んでおられると思うんですが、こんなこともやりたい、あんなこともやりたいといっぱいあると思うんですけれども、まず国から変えていかないとちょっと難しいところもあると思うんですけれども、これを区でやってもしゃあないと言えしゃあないんですけれども、最近そういうことばかり考えているんですが、皆さんどう考えられているのかなと思います。

それと、子どもの問題とか少子化。今、年収200万では子どもは産めない。結婚できない。だから、低所得者の人の所得を上げないといけないのに社会保険で取るとか、どんどん少子化を進めている。日本政府は多分日本人を減らそうとしているんじゃないかと思うんですが、それで、今子どもを育てられる方というのは、どちらかというと勝ち組なんですよ。結婚できないというのが多いので、それを何とか。これは北区で何とかしようといっても無理やとは思いますが、そういう声を上げていて国の施策も変えるというか、地域からそういうのを、何とかしてくれという声が大きくなったらいいなと思っています。

以上です。

○吉川議長

ありがとうございます。

御案内を忘れておりましたけれども、テーマ3も含んで今進んでおりますので、い

ろんな意見で結構でございますので、皆さんの広い意見を求めていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

こちらの回答については、はちょっと難しいね。どうでしょうか。後でまとめてよろしく願いします。

続いて、奥委員、よろしく願いします。

○奥委員

奥です。よろしく願いします。

特に何もないんですが、今ちょっとだけお話があった中で居場所づくりというふうな話が多分あったのかなと思います。年寄りの居場所づくり。それよりも先に多分、今、登校しにくい子の居場所づくり。そんなところをちょっと重点的にやってあげたらどうかな。中学生、小学生もいるのかな。で、どこでも毎週多分やっていると思うんですけども、なかなかコロナがあって食事の用意が出せないというふうなところもありますし、それに対しての行政からの支援というのもなかなか少ないというようなこともありますので、ボランティアというのは多分、基本的にはボランティアと名がついている以上はただでやるというふうなことが多分ボランティアだろうと思うんですけども、ただでボランティアを動かす以上は、物すごくお金がかかるというふうなことだけの認識を持っていたいて動いていただけたらなというふうに思っております。ただ単純に子どもを見ているだけ。じゃ、けがしたらどうするの。保険入らなあかんよね。保険、誰が払うのというふうなところから、多分細かいところから出てくると思うんですけども、当然ながら居場所をつくるということになってきますと場所が要ります。場所が要るということは、電気代もあれば水道代も要りますし、光熱費が全部かかってくると。家に独りでいるからそこに行きたいというふうな。年寄りであろうと子どもであろうと。じゃ、そこまで行く道中の安全というのはどういうふうにするんだろうというふうなところも多分関わってくるのかなと。だから、行

政的には一概に、つくりましょう、じゃ、やりましょう、こうしてやってね、会館があるんやから会館でそういうふうなことを開いてくれはったらどうですかというようなことを言うのは多分物すごく簡単だと思うんですけども、それに対する負債というのが物すごく出てくるなというようなことがあるので、つくらはるときには、先ほど井筒の方からも話がありましたけれども、絶対的に要るのが費用というようなことが入ってきますので、その辺のところも加味していただいて、御計画していただけたらなというふうなことで思います。ありがとうございます。

○吉川議長

ありがとうございます。貴重な御意見ありがとうございます。

今の奥委員、井筒委員の方含めまして、何か御回答いただければと思いますが。中野課長、よろしくお願いします。

○中野福祉課長

居場所というキーワードでお答えするのであれば、いろんな居場所があるかなと思います。木下委員おっしゃっていたお年寄りの方の居場所。それは、木下委員がかねてからお力添えいただいている地域での百歳体操であるとか、そういった居場所。それから、高齢者の方の居場所といいますと、例えば北区は老人福祉センターが2か所あって、こちらの方でもいろんなメニューをされておりますし、地域の福祉会館、憩いの家等でもいろんなメニューを持って居場所をつくっている。例えば、学校になかなかなじめない、あるいは家でなかなか落ち着く場所がない子どもさんのための居場所といいますと、北区が委託をして居場所をお願いしているということについていますと、2つ、北天満の家っしーと、豊崎東のなごみのうつわという、これは直営です。だけれども、ボランティアベースでもやはり笠井委員がお願いしているようなところも、もちろんボランティアベースでいろんな居場所をやっておられます。ちょっ

と私、プライマリーバランスのところ云々は分かりません。確かに直営でやるとなるとお金がかかって大変やというようなところもあって、その部分、何とか直営というか、我々区が委託をしながらやっておるとか、あるいは市の施策でいいますと、居場所の設置に際して若干補助金を出すような制度も立ち上がって、そういうものも活用しながらと思うんですけれども、そういう地域の善意とか資源とかというものについて、もう一つはそこに参加される方、それは来ていただく方、協力される方をどういうふうに誘導していくか。例えば栗原委員おっしゃっていたように、子育てって昔地域でやっていたという中で、百歳体操の場とかに子育て世帯のお母さんとかがやって来られて、一緒に多世代で地域で子育てもやっていくという誘導とかが果たしてできるのかとか、そんないろんな仕組みづくりも必要になってくるのかなと。あるいは、私ちょっと先ほど御紹介したファミリーマートと連携したフードドライブというもの、実際にファミリーマートにそういう食品の回収ボックスを設けて、地域の御家庭で不要になった食品をそこにに入れていただくと。そこに区の協力団体としては家っしーもそれに入れていただいて、家っしーは地域からの寄附をいただいた食品をおやつに使っておられるとか、例えば乾物とかが入っていたら、それは食育のために使うんだというようなことで、これは私たちが委託の中の補助とは別の中で、地域の中で不要になったものを使っていくというような、そういうようなやり方とか、いろんな考え方があるかなと思います。昔から住んでおられる方のコミュニティと、笠井委員おっしゃっていたような新しい緩やかな目的を持って構成された子育てを目的とするコミュニティとか、そういったことが阻害し合うんじゃなくて融合していくような仕組みとか、そういうものがひいては居場所であるとか地域でのコミュニティづくりになっていくのかなと。それについては正直、口では言えるんですけれども、なかなか一足飛びに我々行政だけではできないと思いますし、先ほど区長もお答えしたように、ただ居場所づくりについては区としても重要やと考えていると。区長自身も地域を回られる中で、こういう活動をもっともっとみんなに知ってもらって広めていけとおっしゃ

っていますので、私たちもそういうことも含めて区長と一緒に、あるいは地域の皆さんと一緒に、地域福祉という観点からも考えていきたいと思っておりますので、またそういった御意見を都度いただきながら区の地域福祉を進めてまいりたいと思いますので、何とぞよろしく御協力をお願いしたいと思います。

少し散漫な答えになって申し訳ありませんけれども、地域福祉と居場所という観点から答えさせていただきました。どうもありがとうございます。

○吉川議長

ありがとうございました。

続きまして、勝委員、お願いいたします。

○勝委員

菅北地域の勝です。

子育て支援と健康長寿のことでお話しさせてもらいたいんですけども、先ほど中野課長の方から、子育てサロンがあるのは知らなかったというお声があったという話があったと思うんですけども、私が子どもを産んだ時はもう13年前とかなのでかなり前なんですけれども、その時ももちろん知りませんでした。こうやって自分が地域活動をするようになって初めてそういったものがあるということを知ったというような形になっています。恐らく今もその現状は変わらないかなと思っていて、では、例えばなんですけれども、北区内の産院とか病院とかに子育てサロンがあるという北区の一覧をチラシとしてお渡しするとか、そういったことはできないかなというのはちょっと思いました。お母さんが子どもが産まれて退院する時までに、必ずミルクの試供品とかいろんなパンフレットとかをもらうんですけども、その時にそれに入れて、ちょっとでも見てもらって、必要なところに届けばいいかなというふうには思いました。

あと、健康長寿ですけれども、先ほど木下委員のお話があった居場所づくりなんですけれども、子どもの居場所、お年寄りの居場所、もちろん大事だと思うんですけれども、私は、ちょっと言い方は難しいですけれども、中途半端なお年の方の居場所。高齢者まではいかないんですけれども、やっぱり仕事はもうされなくなってきた、まだ体は元気だけれども、じゃ、何か今まで活動していたわけじゃないので出て行くのがおっくうになっている。そういう方が外に出ないので、やっぱり認知の部分だったりとかが進んだりというのがあられると思うので、そういう人をいかに健康で長生きさせるかという、その居場所みたいなのもあったらいいかなというふうに思いました。

以上です。

○吉川議長

ありがとうございます。

健康課長、よろしくお願いします。

○兼坂健康課長

健康課長の兼坂です。

勝委員の方から御指摘いただきました子育てサロンの広報といいますかお知らせの関係、私ども乳幼児健診として、1歳半なり3歳児健診等をやっておりますので、その際にもできる限り伝えていけるよう、検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

○吉川議長

ありがとうございました。

勝委員、よろしいでしょうか。

お待たせしました、西野委員、お願いいたします。

○西野委員

今日は特になしということで回答させていただいたんですけども、経営課題1から12まで、多分、僕ほとんど関わってまして、今現在、ちょうど子育て世代でして、この間も子どもが生まれまして、先ほどおっしゃっていた子育てサロンの方にもいろいろ行かせていただいております。その都度、課題もやっぱり見えてくる部分もありますし、経営課題2でいくと、地域コミュニティの課題はそれぞれにあると思いますし、地域防災の課題でいくと防災リーダーの役割とか立場っていまいちはっきりしないという部分があるので、どこまでの権限とか機能があるのかというのは今後の課題かなと思います。

地域安全は問題ない。自転車も問題ないんです。子どもの安全も大丈夫です。

小学生の学力向上に関しましては、我々の地域では13か国の子が小学校に集まっているので、そもそも日本語がやっぱり難しい部分があるので、学力向上というのはその次になってくるのかなという課題もあります。

経営課題8の地域福祉に関しましては、まちともガイダンスは多分僕が一番携わっていた経験が多いのであれなんですけれども、地域福祉コーディネーターという名称は若干問題があったりするのかなと思います。これ、よその地域では、地域福祉コーディネーターというのはいわゆるコミュニティソーシャルワーカーのことを指してまして、この北区においては地域福祉コーディネーターという名称であるんですけども、今後ちょっとこの辺も変えていった方がいいのかなと思います。コミュニティソーシャルワーカーの配置なんですけれども、離職率とかを考えると、なかなか地域に根差さないという問題もあるので、その辺も課題になってくるのかなと思っています。

経営課題10、子育て支援に関しましては、先ほど中野さんがおっしゃっていたように多世代。百歳体操に子どもを連れていくとか。僕、基本的に強引に連れて行って

います。この間も健推協という団体の総会に、子どもを預けることができなかったの
で連れていきました。すると、高齢者の方々が子どもをあやしてくれて、多世代交流
ができたと思っております。

健康長寿でさっき木下さんがおっしゃっていましたが高齢者の居場所づくり。これは
本当に非常に重要ななと思っております。高齢者の方も参加されている一団体の会長を
ちょっと預かることになったんですけれども、やはり居場所づくりというのは今後非
常に課題となってくる部分がありますし、健推協という団体に携わっているんですけ
れども、その健推協という団体で理事会に参加される方、またいろいろ総会に参加さ
れる方、これ自体が居場所づくりになっているんじゃないかなと思う部分もあります
ので、今後またちょっとその辺も多く課題はありますけれども、居場所づくりには寄
与していきたいなと思っております。

ちょっといろいろ言ってしまいましたけれども、課題はいろいろあるんじゃないか
なと。その都度対応していきたいなと思っております。

以上です。

○吉川議長

ありがとうございます。

吉沢委員、ご発言どうぞ。

○吉沢副議長

ありがとうございます。

ちょっと個人的な意見ではあるんですけれども、経営課題そのものの話ではないん
ですけれども、この冊子ですね。この冊子の表現の方法ですね。例えば、経営課題の
11、健康長寿とありますね。お手元にございますけれども、要介護につながる原因
疾患の予防が重要である。具体的には適度な運動や栄養バランスの取れた食生活の実

践、また認知症予防に努める必要があると。予防が重要である、努める必要がある。
これが課題認識なんですよ。これは誰にとってなんでしょうね。私、この文章を読んだ時に、北区から見て、あなた方にはそれが必要じゃないですかというふうに見えるんですよ。実際にそこにおられる方々の意見の反映ももちろんあるんでしょうけれども、上から見た中で、あなた方はそうなんじゃないですかというふうに見えるんですよ。私はですよ。個人的な言葉の認識が違いますけれどもね。

それともう一つは、全部を通してそうなんですけれども、課題認識、その次に来るのが主な戦略と来るんですよ。戦略というのは、普通は相手に敵がおって、敵を倒すための方策が戦略なんですよ。例えば、10番の子育て支援。子育て支援をする相手というのは子どもを持っておられる方であって、戦う相手ではないんですよ。そういうところの言葉の使い方が私は気になります。

以上です。

○吉川議長

ありがとうございました。

池西課長、よろしくお願いします。

○池西政策推進課長

おっしゃられることはよく分かるんですが、大変申し訳ございません、まずは、重要であるとか、誰にとってというように御指摘をいただきましたけれども、そのあたりの分かりづらさというのはおっしゃるとおりかなと思いますので、今後、次の運営方針を策定していくに当たりましては、もうちょっと誰から見ても分かりやすい書き方というのを念頭に置いて書いていきます。

あと、課題認識と主な戦略という項目ごとの名称なんですが、大変申し訳ございません、市の様式で定められておりまして、すみません、ちょっとなかなか変えづらい

ところがあるんですが、もし意見を述べる場面がありましたら伝えてまいりたいと思います。

○吉川議長

吉沢委員、よろしいでしょうか。

いろいろ課題が投げかけられたようですが、どうぞひとつ適当というか、表現があればお願いいたしたいと思います。

それでは、最後になりますけれども笠井委員、健康についてお尋ねのことがあるようですが、どうぞよろしくお願いいたします。

○笠井委員

すみません、2度目です。中津地域の笠井です。

いろいろ皆さんと意見が重なる部分がたくさんあったんですけども、私の子育て支援の現場での課題としましても、父親支援やプレ親支援ですね、まだ親になる前の方の支援ということで、国としては少子化によってもっと手前から支援しなければならないとか、男性を支援しなければいけないという方針はあるんですけども、皆さん、私たちの子育て支援拠点に来る時には、妊娠期には知らなかったとおっしゃられますし、父親が来にくいという心理的な問題というのはまだまだ解決できていないので、そのあたりの広報とかは行政サイドで手伝っていただけたら大変心強いというふうに思っています。

一方、学生は、宝塚大学や成蹊大学とか大阪高校とかの方たちがボランティア実習ということで、地域資源を知るために来るということで受入れを今拡充しているところではありますので、学生たちにはそういう制度には引っかからないようなところのソーシャルワークがあるということは勉強されているんだなというのはとても感じるところです。

先ほど栗原委員がおっしゃったところで、子育てがサービス化しているというのは、本当に私自身が、もう一番下が10歳を超えたので10年前の子育てになりますけれども、私自身がサービスの対象とされて、主体的に過ごせない違和感がすごくあったことによって、主体的である場所をつくりたいなと思ってつくったのが根底にありますので、福祉サービスとか子育て支援サービスがあてがわれ過ぎて、私が何かしたいという発信ができないというのも、心理的な拘束というのを受けながら子育てしているという逆転が起きているのかなというのもありまして、中津小学校はたまたまPTAの組織がコロナ禍を活用してすごく活発になりましたので、サッカーチームだったりとかミニバスのチームとかが次々と発足して、PTAが主体となって行事をつくるということで、予算は従来のPTA会費の中で何ら増えないんですけれども、それぞれの個々が主体的になったという印象を受けるので、そのあたりのサービスによらない主体性のエンパワーメントみたいなのも、行政がやっていいよと言ってくれるような、施設開放委員会であったりとかいろいろな場面で、小さな種が芽を出した瞬間を見ていてほしいなというふうに思うのと、先ほどと同じになってしまうんですけれども、知り合うきっかけをつくっていただきたいなと思っております。

○吉川議長

ありがとうございます。

ただいまの意見に回答をいただけましょうか。

○中野福祉課長

福祉課長、中野です。

お答えも多少かぶるかも分かりませんが、今の笠井委員の御意見で非常に印象に残ったのは、子育てがあたかもサービス化しているという。本当に国の制度として、いろんな受給も含めたサービスというのは、これはまさに私たち自治体の、執

行機関でもあるので、先ほどお答えしたように、本当に必要な方に適正なそういう制度といたしますか、制度の中での福祉サービス、子育てサービスを提供するというのは、一つは私たちの職務であるとは思っています。ただ、その中で、おっしゃるように、栗原委員もおっしゃったようにある種の窮屈感であるとか、行政の中でのサービスの柔軟性のなさというところとか、サービスだけを受けていてはできないような、子育て世帯の同じような方の情報の共有であるとか悩みの共有というようなこととか、もっといろんなことを地域を超えてやっていきたいというようなこととかというところを、笠井委員も含めて地域の皆さんが埋めていただけてきたところかなと思います。ですので、そういう行政サービスをしっかりやりながら、そういう地域の方々のそれぞれの目的に応じたコミュニティの中での活動というところを、いろんな世代も含めたコミュニティのつながりというところを、また地域福祉というくくりの中で実現に向けて、私たち行政も地域の皆さんと一緒にしながら補完していただいて、行政でなかなかカバーできないところを地域の皆さんにカバーしていただく。あるいは地域の皆さんから出てきたようなことは、なかなか役所ってすぐさま制度化とか予算化できないというのは心苦しいんですけれども、少しでも、では今ある制度の中で何ができるかというようなことは、福祉課だけではなくて区全体で考えてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○吉川議長

ありがとうございました。

笠井委員、いいでしょうか。ありがとうございます。

委員の皆さん、本当に多くの御意見ありがとうございます。

それではここで、御多忙の中御出席をいただいております議員の先生方に一言ずつお願いをいたしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○高山市会議員

大阪市会議員の高山美佳でございます。本日はありがとうございました。

今日は居場所というのがとてもキーワードになったような、様々な活発な御意見を聞かせていただき、ありがとうございました。

私も今、子どもがちょうど3歳ちょっとなんですけれども、栗原委員の御見解を聞かせていただきまして、制度は充実してきたけれども、ちょっと歯がゆさを感じる部分というのは、改めて制度を推進してきたような立場としては、はっと感じて、自分に置き換えてみると、やはり制度では確かにメニューはたくさんある。けれども、母親としての子育てする喜びを感じられるような心の充実というのがこの大阪市にあるのかなというのは、ちょっと改めてそんな角度からも見てみたいなというふうに感じました。

あと、どういったことを今の子育てされている方が求められているのかというようなことは、やはり子育てサロンなどの場でのアンケートなど、こういったものもやはり重要な生の声が役所とか行政に生かしていけるような仕組みの一つの手段なのではないかなというところにも、御指摘をいただきましたので、私も注視していきたいなというふうに思っています。

そして、居場所というところなんですけれども、私も行政のことに携わっている一人で、皆様方もお詳しい方がたくさんいらっしゃると思います。けれども、まだまだ、やっぱり居場所にまず一步踏み出すのって難しいなというような声というのは時々事務所に届くこともあって、これというのはやはりハードルを上げていくような、誰でも気軽に来られるような居場所というのが、大阪市には子どもから赤ちゃんからお年寄りの方までこれだけあるんだよというのが、やっぱりホームページを見ても散見されるようなところがあるので、どうしたら伝わるのかなという観点に立つと、様々な広報というのはもう一度見ていきたいなというふうに感じました。

あと3名いらっしゃいますので、私の方からはこのあたりにとどめさせていただき

たいと思います。本当に今日は貴重な御意見をいただきましてありがとうございます。

○近藤市会議員

続きまして、近藤でございます。

本日はありがとうございました。本当に皆様の御意見、本当にそのとおりだなと思わせていただく勉強になることばかりでした。

私の方から感想を申し上げる前に、ちょっと1点気になったことを補足させていただきますと、吉沢副議長からいただいた戦略というお話だとかいうお言葉があったと思うんです。これは、大阪市全体として自治体を経営するみたいな、そうした方針があって、目標をしっかり立てて、それに対して課題をどれだけ達成できたかというような経営の方針で立てているところもあって、そういう目標設定については戦略とか課題とか、堅い言葉が続くのかなと思っています。そうした意味では、目標を立てる段階においてはそういう言葉遣いでいいのかなと思うんですけれども、皆さんにお伝えする段階ではちょっと言葉を変えてもいいのかなと正直思ったところもあります。

すみません、そのほか思ったことを1点だけお伝えしますと、コミュニティづくりとかつながりづくりのお話が多かったなと。高山さんからもありましたけれども、思いました。私も、人と人が温かなつながりというのを持てる社会であってほしいなと本当に日々感じています。その中で、市が、区役所が、行政が何をできるのかなと日々考えているところでありまして、この区政会議の場においては、地域が何ができるかというのが非常にテーマなのかなと思っています。本当につながりづくりってあらゆる世代が必要としていまして、御高齢の方でしたらそれこそ本当に命に関わるようなことにもつながりますし、つながりは重要だなと思いますし、あとは最近若い世代、私の同世代とかでも、本当に日々働いて、でも独りで家に帰ってきて、何もつながりがなくて病んじゃうみたいな人も増えてきているとか、あらゆる世代が求められていることかなと思っています。それを地域がどこまで担うのかというのは、ちょっ

と考え直さなきゃいけないところかなと。例えばつながりって、会社なのか趣味なのかボランティアなのかとか、いろいろ担えるところがあると思うんですね。その中で、地域がどうしたサポートや関与していくかというのは、改めて私も含めて考えていきたいなというふうに思われました。また今年度も引き続き皆さんと議論できたらと思っています。ありがとうございました。

○前田市会議員

大阪市会議員の前田でございます。今日は委員の皆様、活発な議論ありがとうございました。

今日のこのテーマというのが、まさに次の10年間、北区が設定するテーマ、そして今後どうしていくのかという、令和7年に向けて非常に多くの皆さんからいろんな活発な議論があってつくっていくわけですが、やっぱり10年前と比べるとこの北区、大阪市全体ですけれども、物すごくやっぱり変わっていつていると。その足元と、この先の10年をどういうふうに読み解いて、課題を設定して、そしてそれをどう解決していくのかということだと思うので、これまでずっと課題、そしていろいろ方針決定をやっているわけですが、いま一度、北区が今どういう状況に置かれているのか、そしてこの先どうあるのかということをやっぱり読み解く、そして市民のニーズは何なのかということが非常に重要になってくるかなと。10年前に比べて人口は2万人ぐらい増えました。一方で、独居高齢者の率が非常に高くなってきています。子どもたちの数は増えていまして、子どもたちが入れなくなる学校も出てきていると。増改築が非常に今進んでいつていると。一方で、先の10年を見ますと、10年後は若干子どもたちの人口も、人口減少がちょっと始まってきているわけですね。一方で御高齢者の方は非常に多くなっている。さらには、地域活動に目を向けますと、それぞれの地域で非常に困っているのが担い手不足になっています。先輩方が担ってきたバトンを後世にどうやって渡していこうかと。俺らの時代はいいけ

れども、次の時代どうしていこうか。これは本当に非常に大きな課題になっていると思いますし、一方で子どもたちの課題も、多国籍の方々も当然多くなっています。多言語対応、学校の教員の先生が非常に難しくなっている。一方では、不登校の児童が今急激に増えていっています。ひきこもりの子どもたちも非常に増えていっている。なので、10年間というスパンの中で、本当は10年で区切るべきものでは、もしかしたらないのかなと思うんですけれども、まずその時代において市民のニーズが一体どこにあるのかということ、先ほどアンケートの話も出ましたが、区の広報紙を毎月発信しているわけですから、そういうところで、市民の方々が今どう思っているのかということ、これを改めて行政は把握をしないといけないんじゃないかなというふうに思います。

そして、一方で、行政だけで対応できるものではもはやなくなっていると思っ
ていまして、北区の財産というのは、前任の前田区長も非常に頑張っておられました
けれども、企業があまたあると。その企業とうまく役割分担をしながら、企業に対し
てもしっかりと求めるべきところはうまく求めていく。企業サイドにとってみると、
それは社会への貢献につながると。企業ブランドにもなってくると。そこと、あとN
PO法人ですよね。先ほども話出しましたが、いろんな活動をやっている。だけ
れども、その活動を知らない方が多くいらっしゃる。そういう橋渡しを行政
がしていく。行政が全て担うということは、恐らくもうこの先限界が来ると思うので、
うまくそういう、専門学校もそうですね。地域の担い手がいなければ、専門学校の生
徒たちが一生懸命やってくれている地域もあろうかと思います。そこをしっかりと全
部ひっくるめた形での次の戦略というのを練っていただけたらありがたいというふ
うに思います。

私からは以上でございます。

○山本市会議員

最後になりました。市会議員の山本でございます。いつもいつも本当にありがとうございます。

私の方からは、この春からこども誰でも通園制度というものの申込みが始まりまして、うれしいことに北区は2か所も手を挙げていただきまして、同心の幼稚園とソラマメというところですかね。ちょっと同心の方しか知らないんですが、すぐに埋まる状況ではなかったということで、有料でもあります。ただ、所得によっては無料の方もありますけれども、幼稚園側が一応きちっとシステムを組んで、1週間の何曜日は2時間とか。本当に私もこれまで、子どもさん1人なんですけれども生まれた時に、この子と毎日一緒はしんどいんですよというママがいてびっくりしたことがあったんですけれども、やっぱり時代というか、そういう方も本当にいらっしゃるんだということを感じて、ぜひとも利用していただきたいなということも思っております。これは保育園に通っていない、幼稚園に行っていない6か月から3歳までのお子さんが利用できる制度を全国で始めたんですけれども、大阪市でも北区が手を挙げてくれて、1件もない区もありまして、ぜひとも、ほかの区からでも結構なんですけれども、こんなことも、もし御存じない方がいらっしゃればと思いました。

あとは高齢者の居場所の件ですが、先日、大東市の逢坂市長のセミナーというか講演を聞きまして、北区のまちともサービスがもっともっと充実しているような内容がありました。有料ではありますがけれども、要支援1、2の方を対象に、市内にある資源を使いながら、そういう方々が500円も800円も払ってデイサービスで一日、お昼御飯を食べるよりも、家ではそんな高いお金をかけて食べてへんの、介護保険でそういうふうになっていたりとか、あと、お風呂に入るためだけに、1週間に1回ですけれども、ずっと椅子に座ったまま、あまり知らない人のいるそういうところに行ったりとか、それでは元気になりようがない。この人たちの要支援を外す、元気にしてあげる、そういう活動を聞かせていただきました。例えば、デイサービス等の車は昼間、用がないので空いている。その車を利用して、地域集会所で百歳体操とか体操し

た人たちと一緒に乗せて、昼間空いているホテルのお風呂に連れて行ってあげて、みんなでわいわい言いながらお風呂に入るとか、もう本当に目の覚めるようなことをされて、大東市で介護保険料が下がったんですよね。大阪市の介護保険料ですので、ぜひともせっかくいい制度、まちともサービスがありますので、もう一步工夫して皆さんに広めていけたらなということもお話しさせていただきます。

今日は本当に皆様の話題をしっかりと共有しながら、また気がついたことは区役所にながながん言っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

以上です。

○吉川議長

先生方、ありがとうございました。

それでは、最後に吉沢副議長よろしくお願いいたします。

○吉沢副議長

では、閉会の言葉でございます。

今日は区政会議ということで、委員の皆様方、月末のお忙しい中、またお足元の悪い中、御参集いただいて、貴重な御意見を賜りまして、今日のこの会議の内容が少しでも北区の行政にいい方向に行っていたきたいというふうに思うところでございます。

また、市会議員の先生方もお忙しい中わざわざお越しいただきまして、ありがとうございます。

○吉川議長

ありがとうございました。

委員の皆さん、議会の先生方、本日は多くの貴重な御意見をありがとうございました。

た。また、本日御提案いただいた意見の中で、まだしっかりと答えが出ていないところがあったと存じますが、これはまた後日の対応をお願いしたいと思います。

それでは、区政会議はこれにて終了いたします。

最後に、区役所の方から何かあればお願いいたします。

○池西政策推進課長

特にございません。ありがとうございました。

○吉川議長

それでは、長時間にわたりありがとうございました。

これをもちまして、第45回北区区政会議を終了いたします。ありがとうございました。

6 配布資料

別添のとおり